

# 柳井先生の講義の思い出

時岡達志（海洋研究開発機構）

気象学についての柳井先生の講義を学部  
の学生として、そして修士課程の学生として聞いた。  
常に豊富な資料を用意され、熱心に講義された。  
その点で、先生の講義は他の多くの講義とは全く  
異なっていた。その思い出の一端をお話し、柳井  
先生への追悼の言葉に代えさせていただく。

私が学部の学生となった頃、東京大学の気象学  
教室の教授は正野重方先生であったが、長期病氣  
療養中で大学に出てこられることはなかった。そ  
のような時に柳井先生が助教授として着任され  
た。1965 年のことである。当初は気象研究所台  
風研究部を兼務しておられた。当時は、現在のコ  
ピーは高価で、通称「青焼き」と称するコピーが  
それに代わるものとしてあった。先生の講義には、  
この青焼きの資料がふんだんに配布された。その  
量の多さは、他の講義における量を大きく引き離  
していた。教育を重視する柳井先生の考えを端的  
に示すものである。当時、各講座に割り当てられ  
ていた予算がいくらであった知らないが、この教  
材費がどの程度を占めていたのだろう。後に、何  
かの際に柳井先生から、Eliassen, A. and E.  
Kleinshmidt, Jr. (1957) の Dynamic Meteorology  
を参考にされて講義を組み立てられた、と伺った  
が、教材の中の図には自らこの講義のために作ら  
れた図が数多くあったと思う。その一例を図 1 に  
示す。発表当日までには、少し調べ、整理して講  
義についてもう少し具体的にお話したい。

東大では毎年「5 月祭」が開かれていた。その  
主役は学部 4 年生である。私が 4 年のとき 5 月祭  
に何を出展するか同僚と議論し、回転円筒水槽実  
験をやろう、ということになった。その動機は当  
然であるが柳井先生の講義で配布された資料の

図である。軸対称流になったり波動になったりす  
るところを示そうということで、総勢 7,8 人で装  
置を作成した。装置をゆっくりと回転させる特殊  
なモーターと、回転水槽の上に固定し回転系に乗  
ってみた画像をとらえる小型テレビカメラは、ど  
ちらもメーカーに協力して貰い、無料で貸しても  
らった。当時の小型テレビカメラは発売直後のも  
ので、現在のものよりもはるかに重量があった。  
5 月祭当日までになんとか装置を完成させ、波動  
レジームと軸対称レジームの存在を確認し、無事  
5 月祭を終えた。後日談であるが、このときに我々  
が無料でメーカーから貸してもらったモーター  
とテレビカメラを、後に柳井先生は講座の予算で  
購入された。誰かがきつと本格的に回転水槽実験  
に取り組むに違いない、と思われたのだろう。現  
実には柳井先生の思いは実現せず、モーターとテ  
レビカメラは気象学教室の部屋の一角に置かれ  
たままとなった。

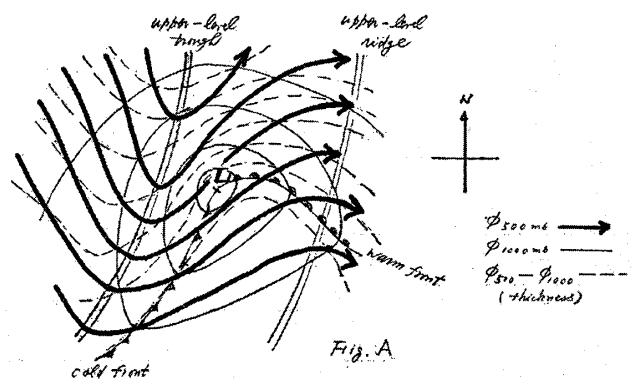


図 1：中緯度低気圧の構造を説明する図。